

平成29年度第3回総合教育会議

- 1 日 時 平成29年7月24日（月曜日）
午後3時30分～午後4時45分
- 2 場 所 富士見市役所 1階 第2委員会室
- 3 出席者 市長 星野 光弘
教育長 山口 武士
委員 五十嵐 洋太
委員 大久保 春美
委員 小野寺 巧
委員 簗輪 菊雄
- 4 署名委員 教育長 山口 武士
委員 五十嵐 洋太
- 5 説明職員 教育部長 木村 久志
教育部長 北田 裕一
教育委員会副部長兼教育政策課長 林 みどり
教育政策課主査 馬場 規雄
- 6 事務局職員 総務部長 大熊 経夫
秘書広報課長 森園 幸則
秘書広報課主任 柳 茉利
- 7 傍聴者 1人
- 8 議 事
(1) 大綱の策定について

○星野市長

皆さんこんにちは。平成29年度第3回総合教育会議ということで、委員の皆様方には、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

さて、昨年8月に市長に就任させていただいてから、富士見市教育大綱の策定をしたいという思いで、皆様とともに協議をさせていただきました。4回の会議、2回の勉強会を経まして、前回の会議では、素案の議論をいただいたところでございます。ありがとうございます。

そして、富士見市の教育が目指すべきものとして、「いのち」、「人づくり」、「学校・家庭・地域の連携」、「教育環境の充実」という4つのキーワードに沿って、基本理念、基本方針を考えてまいりました。特に「いのち」というキーワードを入れたことにより、富士見市らしさを表現できたと感じております。普遍的なものとして、今後も引き継がれていくような教育大綱が出来上がるのではないかと考えております。大綱の策定もいよいよ大詰めでございます。委員の皆様には、ご協力をお願い申し上げたいと思います。

さて、まだまだ暑い日が続いております。土用の丑の日というのもこの1週間の中にありますし、鰻などを食べて精をつけていただきましたら幸いですし、この暑い夏を皆様とともに乗り切りたい、またそれぞれの委員の皆様にはご自愛のほどお願い申し上げます。

それでは、有意義な会議となることを心から期待しまして、私のあいさつとさせていただきます。よろしくお願いたします。

○森園秘書広報課長

ありがとうございました。

本日、説明員として木村教育部長、北田教育部長、林教育政策課長、教育政策課の馬場が出席しております。よろしくお願いたします。

それでは、以後の進行につきましては、星野市長にお願いたします。

○星野市長

それでは会議に移らせていただきますが、その前に、本日の会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員には、山口教育長と五十嵐委員を指名いたしますので、よろしくお願いたします。

本日も、「富士見市教育大綱の策定」について、議論していきたいと思っております。7月13日に行いました第2回総合教育会議において、教育大綱(案)に対し、委員の皆様から、ご意見をいただきました。それらのご意見を踏まえ、修正をいたしましたので、まずは、事務局から説明をさせていただきます。お願いたします。

○森園秘書広報課長

お手元の、「富士見市教育大綱（案）」をご覧ください。まず、基本理念についてですが、こちらにつきましては、第2回の総合教育会議において、ご了承をいただきましたので、内容の変更はございません。

つづきまして、基本方針について、教育政策課から説明をお願いいたします。

○林教育政策課長

それでは、基本方針について、前回の総合教育会議での委員の皆様の見解等踏まえまして、今回の修正案をお示ししていますので、再度私の方から説明をさせていただきます。お手元に配布されております参考資料②をご覧くださいければと思います。一通り、基本方針をあらためて読ませていただく中で、修正した部分の説明を加えながら、ご説明をしたいと思います。

基本方針の1、「人づくりー生きる力を身につける教育を推進します」。1つ目、「人との交流や体験を通して豊かな心をはぐくみ、一人ひとりの可能性を發揮して、未来を切り拓いていく人の育成をめざします。」。こちらについては修正はございません。

つづきまして、2つ目、「自分も他人も大切にする意識を高め、自他を尊重する実践力を身につける教育を推進します。」ですが、こちらでは、参考資料②にありますように、前回、「自分も他人も大切にする」と「自他を尊重する」の部分が、重複しているように思うというところで、書き直させていただきました。結果的には、「自他を尊重する」というのは、つけ加えさせていただいております。前回の原案のままとなりました。当初、「自分も他人も大切にする意識を高め、実践力を身につける」ということで、「自他を尊重する」というのを省いた形でいったん考えたところなのですが、「意識を高め、実践力を～」と言ったところで、その実践力がどういった内容なのか、どういった行為なのかを、思い浮かべられるようなものがあつたほうが、やはりわかりやすいのかなということで、「自他を尊重する実践力」という形にいたしました。結果として、元のままの修正無しの形で、今回もお示しをさせていただいております。

つづいて、「一人ひとりを大切にする教育を推進し、確かな学力を育成するとともに、特別な支援を必要とする子どもたちへの指導・支援を充実します。」ですが、こちらは修正はございませんでした。

次の、「自らの命と安全を守るため、子どもたちが主体的に判断し、行動できるよう育成するとともに、健やかな体の育成をめざした教育を推進します。」ですが、こちらも修正はございません。

大きな2番目、「学校・家庭・地域の連携ー学びあう地域社会をつくる教育を

推進します」ということで、まずサブタイトルの「学びあう地域社会を～」の部分なのですが、当初、「めざす教育」ということで、“めざす”という言葉を入れていました。これについては、すでに出来上がっているものに対しての、到達するための努力ということ、“つくる”や“形成する”といった言葉のほうが良いのではないかというご意見をいただきました。また、“学びあう”と“教育”が重複しているのではないかというご意見をいただきましたところ。今回お示ししましたのは、“つくる”というのは、あえてひらがなにしていまして、これは施設や設備などのハードウェアを作るというよりは、学校・家庭・地域の連携というところでも表していますように、連携ですとか交流とか、人と人との関係を深めることで地域社会をつくる意味合いを持たせるために、ひらがなの表記にしているところでございます。また、“学びあう”と“教育”が重複しているという意見もございましたが、“学びあう”というのは教育振興基本計画の理念でもございますが、「学びあい 人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育」の中にある、“学びあい”と重なる言葉でもございます。一人ひとりの主体的な学びによって、学びあい、成長していくということを表しまして、最後の「教育を推進します」の“教育”については、ある物事を深めていくために、環境を提供することであったりとか、ある程度組織立てて進めていったりという意味合いから、“学びあう”と“教育”という表現は、そのままとしています。

つづきまして、1つ目の「家庭や地域との連携による各学校の特色ある取り組みを支援し、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりに努めます。」ですが、こちらは修正はございません。

次の「子ども自身が学ぶ力を培い、生きる力を高めるため、子どもたちを支援するとともに、保護者同士の学びあいや交流機会の充実に努めます。」ですが、こちらも修正はございません。

次の「学びの成果を分かちあい、地域の力につながるよう、学校・家庭・地域が連携した教育を推進します。」ということ、こちらに関しては、前回ご意見をいただきましたが、「地域の力を向上する」の“向上する”を“向上させる”としたほうが良いのではないか。さらには、文章を読んだだけではなかなかイメージがつかみづらいので再検討を、というお話でございました。元の文面では、出だしが、学びの地域循環や地域力を向上する人という、ある程度限定した事象を捉えた表現としてございました。これを、「学びの成果を分かちあい、

地域の力につながる」としまして、広い意味合いを持たせて、地域全体の力をイメージする表現としています。そして、地域の力に繋がるように、学校・家庭・地域が相互に連携と協力を図りながら、一体となって教育を進めていくということを表して、今回の修正案をお出ししたところでございます。

3番目、「教育環境の充実－生涯にわたって学びあえる環境整備を推進します」ということで、1つ目の「人との交流を通して学びあえる機会や文化、芸術、スポーツなど多様な学習機会を提供し、生涯にわたって誰もが学べる環境づくりに努めます。」ですが、こちらは修正はございません。

次の「子どもたちの学ぶ力や生きる力を伸ばすため、確かな指導力の向上をめざし、学びの質を高める教職員の主体的な取組みを支援します。」ということ、こちらに関しては、当初は「教職員の養成」という言葉にしていたのですが、市が教職員を育成するというよりは、教職員が自主的に研鑽することへの市の支援をという意味合いだという意見をいただきまして、まずは子どもたちの力に関しては、“学ぶ力”の他に、今回の理念にもあります“生きる力”を加えまして、それを伸ばすための教職員の主体的な取組みに対する支援といった形で、今回の修正案をお示ししたところでございます。

つづいて、「学校・公民館を地域に開かれた施設として運営するとともに、子どもたちや地域の人々が安全安心に活動できるよう環境整備に努めます。」ですが、こちらは前回お出しした文章から、当初の原案通りにしたほうがわかりやすいのではないかとということで、「学校・公民館を地域に開かれた施設として運営するとともに～」と、当初の文面に置き換えたものとなっております。修正案につきましては、以上です。

○星野市長

ありがとうございました。それでは、前回の会議で、ポイントとして5つのところで議論をいただきまして、修正を加えたものを、本日説明させていただきました。順番に確認をさせていただきたいと思えます。

まず、基本方針の大きい1番「人づくり」の2つ目、「自分も他人も大切にす意識を高め、自他を尊重する実践力を身につける教育を推進します。」ですが、「自他を尊重する」という表現を残して、お示しをさせていただきました。いかがでしょうか。

○小野寺委員

私のほうで、「自分も他人も大切にする」ということと「自他を尊重する」というのは同じ意味で、くどくなるので、「自他を尊重する」を削ったらどうかという提案をしたのですが、検討していただいて、やはり「自他を尊重する」が無いと、どういう実践力なのかわからないということで、元に戻してあります。確かにおっしゃるとおりで、“実践力”の頭になるような説明が無いと、いきなり“実践力”が出てくるとわかりにくいかなというふうにも思いますので、提案どおりで結構です。

○簗輪委員

逆に反対なんですけど、前回の小野寺委員の発言に賛同をしていたので、修正されるだろうなと思っていたら、修正されていなかったもので、いろいろと案文を考えてみました。ここの部分の文章作成者の意図としては、「意識を高める」と「実践力を身につける」というのは、独立した別の内容という前提の認識があると推測しました。そのために、2つにはそれぞれオブジェクトが必要なので、「実践力を高める」だけではわからないから、「自他を尊重する」をつけたという、小野寺委員が言っていたとおりでと思うんですけど、この2つは、言葉は違うんですけど、突き詰めて考えると、小野寺さんが指摘したように、同義反復だという判断をします。さらに言うと、「意識を高め」の“高め”は、既に意識を持っていることが前提になると思うんですね。すると、まだ持っていない人が、その範疇から抜けてしまうのではないかと。インクルーシブな教育を基本とするなら、その“意識”を持っていない人たちも含めて、教育の対象とすることが肝要ではないか、と思うので、僕はスッキリひとつに絞って、次のようにしたらどうかと考えました。「自分も他人も大切にする意識と実践力を身につける教育を推進します」というふうに、ひとつにまとめたらどうかかと。単純にしたほうが良いと思うんですね。意識も実践力の中でこそ高まっていくのではないかとというふうに思います。ですので、修正を再検討願いたいと思います。

○小野寺委員

「意識と実践力を身につける」というのは私も考えたんですけど、“意識”って身につけるものかなというのがひっかかりまして、“実践力”は身につけるもの

なのかもしれないけれども、“意識”って身につけるものじゃないなと思ったんですね。じゃあこの文章ではダメだなと思って。

○星野市長

このポイントについてご意見ありますか。

○山口教育長

今日事務局から提案があったように、検討の結果残させていただいたという、その検討に私も関わらせていただきました。常に事務局にいますので。前回の提案のとおり、「自他を尊重する」を抜いたものが原文であがってきて読み直したんですが、やはり“意識”は高めるものだけど、“実践力”は身につけるものだというふうに考えた時に、“意識”と“実践力”を並べてしまうと、それぞれ“高める”と“身につける”の表現が弱くなってしまいうんですね。それで、重複はあるんですが、原文のままの方が、伝えたいことが伝わりやすいと私は考えて、事務局にお願いをしました。

○箕輪委員

言葉として、中身は今の説明でわかるんですが、「意識を高める」の“高める”というのは、既に“意識”を持っているという前提になってしまうという捉え方に関しては、どうお考えですか。

○山口教育長

確かに、子どもたち一人ひとりを突き詰めていくと、箕輪委員がおっしゃるような意識を持っていない子どもというのも現状にはいるかもしれませんが、そうすると、「意識を持たせ、持ってる子には高めさせ」みたいな表現になってくると思うので、弱い子も、既に持っている子も、高く持っている子も含めて、それを常に高めていくというような狙い、表現で、ここは「意識を高める」と捉えて良いのではないかと思っています。

○箕輪委員

わかりました。それでいいと思います。

○星野市長

私の意見として1つ加えておきます。“意識”と“実践力”を分けてあることについて、センテンスが区切って表現されていることの意義を私は感じるのと、「自他を尊重する」というところに、自分と他人、地域から見た子どもたちとか、それぞれの立場の違う人たちが、こうした想いを持つこと。それは“意識”よりもさらに高いところ、“尊重”に値すると思うのですが、そういう関係を作り、それを実践していくということの表現が、さらに高く表現されているように感じました。私も、この文案でいっていただければありがたいなと思います。

○大久保委員

前は欠席してすみませんでした。基本理念では“他者”という言葉を使っているのですが、ここでは、「自分も他人も」となっていて、“他人”という言葉を使うという話が出たのでしょうか

○星野市長

“他人”という言葉についてのやりとりは無かったと記憶しています。

○大久保委員

私が伝えたかったのは、どうしても子ども子どもになってしまうのですが、この教育大綱は、子どもの教育だけでなく、市民全体の教育であること。それから、これだけの高齢化社会を迎える中で、いろいろな人たちがいるので、自分以外の人存在自体をしっかりと確認をして、存在しているということ意識を持つということがすごく大切だと思うので、この文章を考えるにあたって、子どもというよりも、すべての市民、また弱者もたくさんいるという前提で、この文章が良いのかどうか。2つ目の丸だけではなくて、人づくり、それ以外全体も含めて、そういう想定で文章を管理していただきたいと思います。

ここは“他人”で良いんですかね。上が“他者”で、ここは“他人”になっていますが。“他人”より“他者”のほうが少し優しいかなと思うので。

○山口教育長

そこは気づきませんでした。賛成です。

○星野市長

今ご指摘いただいた、“他人”を“他者”と言い換えるということによろしいでしょうか。

また、当初から、子どもだけでは無いというご指摘をいただいておりますので、全ての市民、また関わりのある方すべて、というエッセンス、柱というのは通っていると、素案を何回かやり取りをする中では、そのように感じているところです。

それでは、全体の文章は、説明をさせていただいた文章にさせていただきますが、大久保委員からご指摘をいただいた、「自分も他人も」を「自分も他者も」に変えさせていただきます。

つづいて、大きな2番「学校・家庭・地域の連携」のサブタイトルですが、「学びあう地域社会をつくる教育を推進します」に変えさせていただきました。このポイントについてはご同意いただけますでしょうか。

●一同賛成

○星野市長

つづきまして、「学校・家庭・地域の連携」の3つ目、「学びの成果を分かちあい、地域の力につながるよう、学校・家庭・地域が連携した教育を推進します。」の部分についてはいかがでしょうか。ご同意いただけますでしょうか。

●一同賛成

○星野市長

それでは、修正案のとおりということで、確認をさせていただきました。

つづきまして、大きい3番「教育環境の充実」の2つ目、「子どもたちの学ぶ力や生きる力を伸ばすため、確かな指導力の向上をめざし、学びの質を高める教職員の主体的な取組みを支援します。」については、いかがでしょうか。

○箕輪委員

少し理屈っぽくなるんですが、この文章の最初のセンテンス、「子どもたちの学ぶ力や生きる力を伸ばすため」は子どもが主体で、次の「確かな指導力の向

上をめざし」は教職員が主体になると思うんですよね。そうすると、3番目のセンテンスの“学び”というのは誰が主体になるのか曖昧だなという印象を受けたんです。この文脈から、子どもたちは第1文節で終わって、第2文節から先生方が主体になると。その流れで来ると、この“学び”の主体は先生方だとなって、主体的な取り組みを先生方が学んでいくというふうを受け止められる文章だなと読み取ったんですよね。ただ、その1文節、2文節が無ければ、独立したセンテンスだけであれば、当然“学び”は子どもたちが、ということで読み流してしまっても構わないということなのですが、2番目に教職員の主体が入ったら、その文脈で第3文節に流れ込んでいくので、これはちょっとまずいかなと思ったんですよね。それで、どういうふうにしたら良いかを考えたんですが、やはり枕詞というのは失礼なんです、「学びの質を高める」というのがついているので、どうしても切らざるを得なくなるんですが、もっと簡潔にしても良いのかなと思って、こんな文案を考えてみました。「子どもたちの学ぶ力や生きる力を伸ばすため、指導力の向上をめざす教職員の主体的な取り組みを支援します。」というふうにしたほうが、文章の流れとしては、途切れないで良いのかなと思っています。

○小野寺委員

スッキリしたのではないでしょうか。

○星野市長

箕輪委員のご提案は、スッキリしてわかりやすくなったと感じています。ただ、冒頭ご説明いただいた、「子どもたちの学ぶ力や生きる力を伸ばすため」の解釈については、ここを目標とするには、一義的に教職員の力が必要であるという解釈は、私はこれは良いと思っているんですよね。子どもたちが元気に学ぶ力を向上していくためには、やはり先生方の力が伸びないといけない。だから、私たち教育委員会や富士見市は先生方を応援します、という全体の解釈だと思うんです。ご指摘いただいた、文章を少し短くしたということで、スッキリしたということは同感です。

○山口教育長

市長がおっしゃったことは、そのとおりに私も理解しています。箕輪委員が

おっしゃたことは、結論的には、今のでスッキリして良いと思うんですが、「学びの質を高める」は、子どもの学びではなくて、“授業”という意味の学びで捉えてきました。ですから、「確かな指導力」というのは、「学びの質を高める」ことだから、ここは重なっていると考えていいので、スッキリさせたほうが良いかなと思っているんですが、より良い授業を作れる教職員の主体的な取り組みというふうに私は捉えていたので、この言葉にも重い意味があるなと感じていました。だから残してくださいというところまではいかないのですが。

○箕輪委員

“授業”そのものをということですか。

○山口教育長

“学習”にしてしまうと少し狭い印象を受けます。“学び”というともっと広いので。豊かな心を育てるとか、授業以外での行事だとか、学校生活そのものが、子どものすべての学びの場なので、教職員は全体を通して質を高める必要があるという、そういう意味での“学び”と理解しています。

○箕輪委員

学ぶ主体は子どもたちですね。教える先生の作る環境の中で、学ぶ質が高まっていく。その質が高まる対象は、子どもたちという理解で良いですね。

○山口教育長

それは、前段なんですね。「子どもの力が伸びる」という。子どもを伸ばすための学びの質を高めていくのは教職員ということです。

○星野市長

ここでの表現の対象者としては、先生方ですね。

○山口教育長

先生としての、「学びの質を高める」ということになります。結果として、子どもたちの力が伸びるということです。

○小野寺委員

結論的には、簗輪委員が案としておっしゃっていたのが、スッキリとしてわかりやすいかなと思います。あとは、例えば「確かな指導力」ってなんだろうとか。「確かな学力」という言葉が最初に出てきたときに、「確かな学力」ってなんだろうと思って、もう今は慣れましたけど、ここで新たに「確かな指導力」って出てくると、またいろいろと考えなくちゃいけないし、「学びの質を高める」と言われても、いろんな方が読むんだろうと思うんですが、「学びの質を高める」を無くして、いろんな取り方をして、共通認識を持つ資料という話も前回出ましたが、そういうのがあれば、無くしても良いのではないかと思います。意味はしっかり伝わるのかなと思います。

○五十嵐委員

読み手一つで捉え方って変わってくると思うんですけども、“コンパクト”というのは一番最初に言っていた部分なので、簗輪委員の言うとおりに、カットしていいのかなと思いました。一般的な意見として、カットしたほうが理解しやすいのかなと思いました。

○大久保委員

私も、短いほうが良いです。

○星野市長

それでは、簗輪委員にご提案いただいた、「子どもたちの学ぶ力や生きる力を伸ばすため、指導力の向上をめざす教職員の主体的な取り組みを支援します。」ということで、よろしいでしょうか。

●一同賛成

○簗輪委員

それで補足なんですけど、今の文章は、「伸ばすため、」で切っているんですけど、“に”を入れて「伸ばすために、」としたらどうなるかを検討してみたんですが、そうすると、“に”は強調の助詞なので、教職員の取り組みがそれに限定されるんじゃないかというふうに思ったので、先生方にはもっと、多角的に多義的に

研修をやっていただきたいという思いから、「伸ばすため」というのもそのうちの1つであって、そのために研修はあるんじゃないよという思いから、あえて“に”は入れないほうが良いという判断をしました。

○星野市長

確かに、“に”を入れることでポイントは深まるけれど、逆に言うと、相対的なものは見えなくなってしまう印象を受けます。

つづきまして、3つ目、「学校・公民館を地域に開かれた施設として運営するとともに、子どもたちや地域の人々が安全安心に活動できるよう環境整備に努めます。」の部分ですが、いかがでしょうか。

○箕輪委員

良いと思うんですが、少し付け加えての意見なんですが。“安全安心”は一応別の概念なので、間に中黒を入れて、“安全・安心”としたほうが良いのではないかなと思います。“安全安心”という四文字熟語は、あまり使わないかなと思います。

○林教育政策課長

箕輪委員がおっしゃるとおり、教育振興基本計画の中でも、“安全・安心”としていますので、それに揃えたほうがよろしいかと思います。

○星野市長

この点だけでよろしいですか。他はよろしいでしょうか。

○小野寺委員

質問なんですが、「学校・公民館を～」と2つを名指しなんですが、この2つだけで本当に良いんですかね。“等”とか入れたほうが無難なのかな。資料館とかもありますし。

●一同賛成

○星野市長

では、「学校・公民館等を～」ということで、図書館や資料館などの施設も含めた形とするということにします。

それでは、修正箇所についてご議論いただいたところはすべて終わりましたが、他に何かございますでしょうか。

○簗輪委員

基本方針1番「人づくり」の4つ目なのですが、最後のセンテンスで、「健やかな体の育成をめざした教育を推進します。」という表現なのですが、この大綱全体の文章は現在形で表されているので、ここだけ過去形なのは違和感があるので、“めざす”に統一したほうが良いと思います。

それから、3番目の「教育環境の充実」なのですが、「環境づくりに努めます」「環境整備に努めます」という表現で終わっているんですが、この間教育長と会話をした時に、“環境”というのは、学校の用語としては、いろんなものを含むということをおっしゃっていたので、自分なりに考えてみると、1つ目は、ハードとソフトを含めた環境、3つ目は、ハードに限定して良いかなという捉え方なんですね。そうすると、「努めます」という言葉の響きなのですが、やりますよと言っているけども、実際には何をやっているかわからない、ソフトが関わってくると、具体的な目に見えないものが含まれるので、なおざりに、おざなりにしているんじゃないかなと受け止められかねないという危惧を感じたんですね。しかし、富士見市は、例えば1つの例ですが、キラリ☆ふじみがあって、歌舞伎を呼んで中学生を招待するような取り組みをすでに行っているとか、そういう実践例を前面に出して考えた時には、ここは「努めます」よりは、中身も作られてきているので、「推進します」のほうがふさわしいのではないかと。「環境づくりを推進します」と直したらどうでしょう、という提案です。

○星野市長

ご指摘いただいたところの1番「人づくり」の4つ目、「健やかな体の育成をめざす教育を推進します。」については、ご指摘のとおりでよろしいですか。

●一同賛成

○星野市長

3番目の「教育環境の充実」の1つ目、「環境づくりに努めます」を「環境づくりを推進します」にするというご指摘はいかがでしょうか。

○山口教育長

迷っているのは、ここは「推進します」で良いとして、他の部分との整合性はどうかかなと。結論は出ていませんが、大丈夫かどうかを今考えていました。

○大久保委員

サブタイトルは、全部「推進します」になっていますよね。

○簗輪委員

全部「推進します」というのもどうかと感ずるので、多少は進捗状況を反映するような表現もあって良いのかなと思います。

○星野市長

「努めます」は、努力しますという理解で良いですかね。「推進します」はもうすでに行っていますということで。

○山口教育長

そういう風にとると、2番の1つ目も、力を入れて取り組んできている部分があるんですよね。学校運営支援者協議会などは、少なくとも県内では、他市に比べて進んでいるので、これが当てはまると思うんですが。「努めます」だと、これから取り組んでいきますという意味が強くなってしまうので、それで悩んでいたんですが。

○簗輪委員

それも、「推進します」で良いと思います。

○星野市長

そうすると、最終的に、修正箇所以外では、1番の4つ目、「育成をめざす」。

2番の1つ目、「努めます」を「推進します」。3番の1つ目、「環境づくりを推進します」。ということですね。

○簑輪委員

もう1つありました。1番「人づくり」の1つ目なのですが、真ん中のセンテンスは「一人ひとり“の”可能性を発揮して」というふうになっているのですが、これを改めて読んでみると、「一人ひとり“の”可能性を発揮する」というのは、どなたか第三者が、使役動詞として発揮させるという印象になりますので、目的格になるんですね。ここは前回の文章のとおり、「一人ひとり“が”可能性を発揮して」というままのほうが良いのではないかと思います。

●一同賛成

○簑輪委員

それから、重要な発言があるんですけども、あらためて、これを初めて見る市民の視線で読んだらどうなのかということを第一に考えて、それを守るために、流れは踏まえつつも、今までの会議での自分の発言に肯定されないで、あらためて見てみようという思いで見ました。

そこで、基本理念の第1段落なのですが、こんな感じを受けました。「今を生きる自分の存在を認め、他者の存在を尊重する」という表現で、基本理念のバックボーンを勝手に考えてみたんですが、自分と他者は、同等あるいは同格であるはずだという理解を前提的に考えると、同格なものを“認め”と“尊重する”と分けてしまうのは、正直違和感を感じるんですね。それで、最後の「～つながります。」というところで、何に繋がるのかということを考えると、「～認め、～尊重する」というところに繋がるということだと思ってしまうんですけども、第2段落と比べると、ここのメッセージが弱いなと思いました。第2段落は、「人を育てます」といった推進的なイメージに対して、「つながります」というのは、ぶら下がっているだけのインパクトしか無いという印象を受けたんですね。「つながります」という表現を活かして、ここのところをうまく表現できないかと思ったんですが、富士見市は、他市町に類を見ない、「人間尊重都市」であるというところに立脚してくると、そこを意識して表現したほうが良いのかなという思いに至って、こんなふうに考えました。「自分の存在を認め、そし

て他者の存在も認める、人間尊重の精神につながります」というふうなまとめを考えてみたんですが、いかがでしょうか。文のメッセージとしては、いのちに目を向けると、人間尊重に繋がりますよというのを表現できればなという形になっています。細かいことを言うと、“認める”と“尊重する”というのは、ちょっとレベルが違うんじゃないかなと。自他ともに認めて、ともに尊重するという表現になったほうが良いかなと。

○星野市長

ご提案をいただきました。基本理念のところですが、いかがでしょうか。

○大久保委員

私は、簗輪委員の修正案は良いと思います。後ろともうまく繋がっていると思います。

○山口教育長

基本的には良いと思いますが、何度も何度も読んでみると、「自分の存在を認め、他者の存在“も”」となっているので、“そして”は無くて良いかなと思いました。長い文章同士を繋げるとすると、“そして”はあったほうが良いんですが、ここは、「自分の存在を認め、他者の存在も認める」と言ってもスッと通るので。

○星野市長

ご指摘いただいたことで、私は逆に「つながります」に疑問を持ってしまって、つなげるのではなく、そういった心を持った人間をつくるんだという、もう少し力強い言葉のほうが良いのかなと。そのほうが、今ご提案のあった、自分の存在を認め、他者の存在も認め、それが人間尊重の精神をつくることにつながる、ということですよね。感覚として、“つながる”よりはもう少し強い言葉を使いたいなど、今思ってるんですけど。

○簗輪委員

最初の文脈から言うと、「いのちに目を向けること」が主語になるので、それが、「人間尊重の精神を育みます」とか、そういう理念として宣言するのが良い

かなと思います。

○山口教育長

基本理念の6行で言いたいことが、「「いのち」を輝かせて精一杯生きる人を育てます。」、富士見市民がそういうふうになってほしいということを願っています、ということをもとめていて、2つのことを言いたいんじゃないというふうに私は捉えています。最後を言いたいがために、人間尊重がベースになります、そしてそのことが、いのちを輝かせることにつながっていきます、というふうに捉えていたので、「つながります」が弱いとは思わないんですね。逆にここも“育む”にすると、“育てます”と“育てます”になってしまうかなと。

○森園秘書広報課長

事務局でも、教育政策課と話した中では、「人間尊重都市」というのは、昭和41年に宣言をしていますが、その精神を大切にしている前提があるというところで、最後の「「いのち」を輝かせて精一杯生きる人を育てます。」に繋がるものだと考えています。

○箕輪委員

ではあらためて、教育長が言ったように、「つながります」を活かして、全体でこういう表現になっているという理解で良いと思います。

○山口教育長

「つながります」よりも、もっと良い言葉があればそれは構わないと思うんですが、「育みます」にしてしまうと、2つのことを育てるというふうになってしまうのは、少し違うかなと思います。

○星野市長

ではもう一度確認しますが、「自分の存在を認め、他者の存在も認める、人間尊重の精神につながります。」ということですね。いかがでしょうか。

○小野寺委員

私は、個人的には原案のとおりで充分かなと思っています。またここで、人

間尊重だとかなんだとかって出てくるよりは、原案はわかりやすくスーッと入ってくる良い文章だなと思っていたので、そのままでもいいかなと思うんですが、こちらのほうが良いという方が多ければ、意味が変わるわけではないので、けっこうだとは思いますが。

○山口教育長

全体の作りからすると、“人間尊重”という言葉は少し重いかもかもしれませんね。難しいですね。

○五十嵐委員

会議を重ねて、何十回も文章を読んでいると、どっちが正しいのか見当がつかない部分があるんですが、先ほど箕輪委員が提案された文章は、大変重みがある文章だと思いますが、原案というのは、さらっと読めるけど伝わってくるものがあるので、私もどちらかと言えば原案のほうが良いかなと思います。

○小野寺委員

キーワードが「いのち」ですから、それ以上に余計なことは入れないほうが良いですね。

○山口教育長

「いのち」が少し薄くなってしまいかもかもしれませんね。

○箕輪委員

最初は、「つながります」のインパクトの部分は、市長も賛同されていたんですが、全体でもって一つの表現をするというところに立ち戻ると、このままのほうがスッキリして良いかなという思いもあります。最初に言ったように、どうしても変えたほうが良いというわけではなくて、自分でもこれを了承した流れがあるので、皆さんの了解が取れば、良いのかなと思います。

○星野市長

それでは、いろいろとご議論いただきましてありがとうございました。基本理念について、問題提起もいただき、箕輪委員ありがとうございました。原案

をもう一度読ませていただいて、ご理解をいただけたと思います。基本理念につきましても、原案の文章を採用させていただくということによろしいでしょうか。

●一同賛成

○星野市長

基本方針につきましては、今日ご指摘をいただいたところがいくつかございましたが、修正をさせていただくということで確認ができましたので、この修正案をもって、「富士見市教育大綱」ということでまとめさせていただきます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

●一同賛成

○星野市長

それでは、本日をもって、大綱（案）についての協議は終了させていただきます。皆様には、一つひとつ真剣にご議論いただいて、字句を噛みしめながらご協議いただけたなと思っています。委員の皆様には感謝申し上げます。ありがとうございます。

そして、これがゴールではございません。大綱を作ったということで、終わりではございません。その後の教育振興基本計画並びにそれを推進していく役割が、私、または山口教育長にはございます。どうぞ教育委員の皆様には、これからもご指導をお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして、会議を終了したいと思います。ありがとうございました。